

2017年8月16日
公益財団法人イオン環境財団

～生物多様性の主流化に向けて～
第5回「生物多様性日本アワード」優秀賞の決定について

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、厳正な審査のもと、第5回「生物多様性日本アワード」の優秀賞を決定しました。

－第5回「生物多様性日本アワード」優秀賞－

| 受賞団体名 | プロジェクト名 |
|---------------------------------|---|
| 宮城県漁業協同組合 | 国際養殖認証の取得を通じた持続可能で高品質なマガキの養殖生産 |
| 一般社団法人企業と生物多様性 イニシアティブ（JBIB） | 企業における生物多様性主流化のためのツールやガイドラインの開発 |
| トンボはドコまで飛ぶか フォーラム | トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト |
| 学校法人山陽学園 山陽女子中学校・高等学校 地歴部 | 瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦 |
| NPO法人 黒潮実感センター | 「高知県西南端柏島・島が丸ごと博物館（ミュージアム）」 持続可能な里海づくり |

「生物多様性日本アワード」は、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、国連生物多様性条約事務局とのパートナーシップ協定のもと実施しているものです。本アワードは、2010年に生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋で開催されるのを契機に、2009年に創設した国内賞で、2010年に創設した国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」と隔年で開催しています。

第5回を迎えた本年は78件のご応募があり、審査委員会による厳正な審査の結果、顕著な功績のある5団体を顕彰します。9月26日には、国際連合大学（東京都渋谷区）において授賞式を開催し、優秀賞の表彰にあわせ、傑出したプロジェクト1件をグランプリとして発表します。授賞式では、各受賞団体による活動内容のプレゼンテーションを予定しています。

当財団は、本アワードにより生物多様性に関するさまざまな取り組みを主流化させるとともに、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、今後も環境保全活動に取り組んでまいります。

【第5回「生物多様性日本アワード」概要】

主催：公益財団法人イオン環境財団

後援：環境省、国連生物多様性の10年日本委員会

応募資格：日本国内の団体・組織・企業・個人（複数の団体・組織による共同の取り組みを含む）

対象活動：生物多様性の保全、生物多様性の持続可能な利用、生物多様性の普及・啓発

顕彰内容：グランプリ 1件 表彰状、副賞200万円

優秀賞 4件 表彰状、副賞100万円

授賞式：〈日時〉9月26日（火）14：00～18：00

〈場所〉国際連合大学 ウ・タント国際会議場

※その他詳細、ご出席のお申し込みは、当財団のホームページ <http://www.aeon.info/ef/> をご参照ください。



<受賞プロジェクト概要>

| | | | |
|---------|--|-----|------|
| プロジェクト名 | 国際養殖認証の取得を通じた持続可能で高品質なマガキの養殖生産 | | |
| 受賞団体名 | 宮城県漁業協同組合 | 所在地 | 宮城県 |
| 活動概要 | 震災復興を契機に海の環境に合わせたマガキの生産を開始。日本で初めて「海のエコラベル」ASC認証を取得した。里海の維持と、生態系への配慮、認証制度の普及、消費活動を結びつけ、「持続可能な養殖」を推進している。 | | |
| プロジェクト名 | 企業における生物多様性主流化のためのツールやガイドラインの開発 | | |
| 受賞団体名 | 一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB) | 所在地 | 東京都 |
| 活動概要 | JBIBでは、生物多様性の保全に積極的に取り組む幅広い業種の企業を会員として組織化。JBIB内の5つのワーキンググループが開発したツールやガイドラインが、広く公開、提供、活用されることで、生物多様性の主流化に大きく貢献してきた。 | | |
| プロジェクト名 | トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト | | |
| 受賞団体名 | トンボはドコまで飛ぶかフォーラム | 所在地 | 神奈川県 |
| 活動概要 | 指標性の高いトンボ類に着目し、14年に及ぶ活動を産官民学の多様な主体の連携によって継続。都市部における生物多様性の取り組みモデルのひとつとなっている。トンボにマーキングをして追うという作業を考案・実施した新規性が光る。 | | |
| プロジェクト名 | 瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦 | | |
| 受賞団体名 | 学校法人山陽学園 山陽女子中学校・高等学校 地歴部 | 所在地 | 岡山県 |
| 活動概要 | 女子中高生が自分たちの海とその生態系を回復させるために海底の浄化に取り組む。社会制度的な枠組みに収まりにくく、対応が立ち後れている「海底ごみ」の複合的問題に着目し、精力的に活動。海底ごみの問題を国内外に広く訴えかけている。 | | |
| プロジェクト名 | 「高知県西南端柏島・島が丸ごと博物館(ミュージアム)」持続可能な里海づくり | | |
| 受賞団体名 | NPO法人 黒潮実感センター | 所在地 | 高知県 |
| 活動概要 | 温帯域にありながら生物多様性の宝庫である高知県柏島。その豊かな自然と、そこに住む人の暮らしを「まるごと博物館」と捉え、持続可能な里海モデルの創出を目指す活動。漁業や観光の視点から生物多様性に取り組み保全と利活用を両立している。 | | |

<審査委員>

(五十音順・敬称略)

| | | |
|-----|--------|----------------------------|
| 委員長 | 岡田 卓也 | 公益財団法人イオン環境財団 理事長 |
| 委員 | 赤池 学 | ユニバーサルデザイン総合研究所 所長 |
| 委員 | 岩槻 邦男 | 東京大学 名誉教授・兵庫県立人と自然の博物館名誉館長 |
| 委員 | 鬼頭 秀一 | 東京大学 名誉教授・星槎大学 副学長 |
| 委員 | 黒田 大三郎 | 公益財団法人地球環境戦略研究機関 シニアフェロー |
| 委員 | 香坂 玲 | 東北大学大学院 環境科学研究科 教授 |
| 委員 | 南川 秀樹 | 公益財団法人イオン環境財団 理事・元環境省 事務次官 |

ご参考

■歴代グランプリ受賞の取り組み

第1回（2009年）「地域企業との協働による谷津田の保全」

NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社／株式会社田中酒造店

茨城県にある湖沼「霞ヶ浦」の水質悪化により絶滅に瀕していた浮葉性植物である「アサザ」を再生するため、1995年より流域の学校、住民、農林水産業、企業、行政等が連携して実施する市民型公共事業「アサザプロジェクト」を開始しました。湖各地での自然再生や里山の保全、外来魚駆除事業、バイオマス事業などで持続可能な循環型社会の構築に取り組み、100年後にトキの舞う湖をめざしています。



第2回（2011年）「湿地環境の指標種としての雁類の保護およびその生息環境の保全・復元と人間との共生を目指す活動」

日本雁を保護する会

雁類の渡り経路を国際調査で解明し、国内生息地での調査結果を「ガン類渡来地目録」等にまとめ、保全・啓発・提言活動を実施しています。近年はその生息地である水田に注目し、雁類の生息地復元と水田の生物多様性を活かし、農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼかふの提唱・普及に取り組んでいます。水田の湿地機能への関心を高める「かふ無栗沼・周辺水田」のラムサール条約湿地登録、ラムサールCOP10およびCBD・COP10での「水田の生物多様性に関わる決議」実現に貢献しました。



第3回（2013年）「津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興」

NPO法人田んぼ

宮城県気仙沼をはじめ、塩竈、南三陸、岩手県陸前高田を中心に生態系の復元力を活用した自然農法のシステム（ふゆみずたんぼ）で津波被災地の田んぼの復興を実現しました。1,200名を超える多様なボランティアの参加により、手作業で田んぼの復興を試み、抑塩にも成功しています。また各地で、生物多様性、水質、土壌内の微生物の活性度調査などの科学的なモニタリング実施により現況を把握し、その結果、被災した年の秋から豊かな収穫を享受することができました。



第4回（2015年）「エゾシカの先進的な資源的活用促進事業」

一般社団法人エゾシカ協会

北海道においてエゾシカの適正な個体数管理が強く求められる中、シカ肉を適正に利用し、森林保全に還元する仕組みを作るため、2007年に厳しい衛生基準をクリアしている解体処理場の製品の認証制度を創設しました。2012年からは認証処理場で処理された肉の加工食品の認証制度をスタート。2015年からは肉の検査者となるシカ捕獲者の認証制度創設にも取り組んでいます。安心安全なシカ肉の流通により、森とエゾシカと人との適正な関係を築き、シカ肉の資源的価値の向上に貢献しました。



■歴代受賞プロジェクト一覧

| 回／年度 | | 団体名 | 受賞プロジェクト名 | 活動地域 | 団体所在地 |
|--------------|-------|---|--|----------------|------------|
| 第1回 2009年 | グランプリ | NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社 ／株式会社 田中酒造店 | 利用フィールド部門：地域企業との協働による谷津田の保全 | 茨城県 | 茨城県他 |
| | 優秀賞 | 財団法人 知床財団 | 保全フィールド部門：知床の生物多様性に関する取組 | 北海道 | 北海道 |
| | | NPO法人 農と自然の研究所 | 保全リサーチ部門：「農」に着目した地域における生物多様性の保全のための活動 | 福岡県 | 福岡県 |
| | | 鹿島建設株式会社 | 利用リサーチ部門： エコロジカルネットワークの研究と実践 | 首都圏 全国 | 東京都 |
| | | コウノトリ育むお米生産部会／JAたじま／NPO コウノトリ湿地ネット／豊岡市／兵庫県豊岡 農業改良普及センター | 保全プロダクト部門：「コウノトリ育む 農法」とコウノトリ共生米 | 兵庫県 | 兵庫県 |
| | | 積水ハウス株式会社 | 利用プロダクト部門：生物多様性保全を 含む10の調達指針 | 全国 | 東京都 |
| | | 中日信用金庫 | 保全コミュニケーション部門：「生物多様 性について考えてみませんか」定期の取り 扱い | 愛知県 | 愛知県 |
| | | サラヤ株式会社 | 利用コミュニケーション部門：「ボルネオ はあなたが守る！」キャンペーン | マレーシア 全国 | 大阪府 |
| 第2回 2011年 | グランプリ | 日本雁を保護する会 | 湿地環境の指標種としてのガン類の保護お よびその生息環境の保全・復元と人間との 共生をめざす活動 | 宮城県 | 宮城県 |
| | 優秀賞 | 有限会社 熊谷産業 | 茅場の保全から茅葺屋根までーヨシ原と共 に生きるー | 宮城県 | 宮城県 |
| | | NPO法人 ピッキオ | クマ保護管理事業 | 長野県 | 長野県 |
| | | NPO法人 多摩源流こすげ | 山梨県小菅村における多摩川源流大学を 中心とした源流域の自然保全活動と教育 活動 | 山梨県 | 山梨県 |
| | | 株式会社 野田自然共生ファーム | 野田自然共生ファーム | 千葉県 | 千葉県 |
| 第3回 2013年 | グランプリ | 特定非営利活動法人 田んぼ | 津波に被災した田んぼの生態系復元力に よる復興 | 宮城県 岩手県 | 宮城県 |
| | 優秀賞 | 味の素株式会社 | 太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と一連 の協働・普及啓発活動 | 西日本太平 洋沿岸地域 | 東京都 |
| | | 中越パルプ工業株式会社 | 「竹紙（たけがみ）」の取り組み | 九州等 | 東京都 富山県 |
| | | てるはの森の会 | 綾の照葉樹林プロジェクト | 宮崎県 | 宮崎県 |
| | | ネイチャー・テクノロジー研究会 (東北大学大学院環境科学研究科) | ネイチャー・テクノロジー創出のシステム 構築 | 全国 | 宮城県 |
| 第4回 2015年 | グランプリ | 一般社団法人エゾシカ協会 | エゾシカの先進的な資源的活用促進事業 | 北海道 | 北海道 |
| | 優秀賞 | 株式会社伊藤園 | 「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を 美しく」プロジェクトを通じた生物多様性 保全の取り組み | 滋賀県 全国 | 東京都 |
| | | 九州の川の応援団／九州大学島谷研究室 | 水辺環境の保全・再生の実践と地域活性化 | 福岡県 韓国等 | 福岡県 |
| | | NPO法人グラウンドワーク三島 | 市民力を結集してドブ川を多様な生き物が すむ「ふるさと川の川」に再生・復活 | 静岡県 | 静岡県 |
| | | 気仙沼市立大谷中学校 | 大谷ハチドリ計画 (Ohya Hummingbird Project) | 宮城県 | 宮城県 |